[C2]暗号化あり_Encryption

JETRO

北米イノベーションエコシステムクラスターレポート(アグリテック)



日本貿易振興機構（ジェトロ）

ニューヨーク事務所

2025年04月

【免責条項】
本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。
なお、本レポートに記載の内容はすべて 2025年3月時点での情報です。

また、本レポートは、OCO Globalの協力を得てとりまとめました。

禁無断転載 Copyright (C) 2025 JETRO. All rights reserved

内容

I.　本調査の概要および調査手法

II. セクターおよびクラスター概要

III.セントルイス St. Louis (MO州、米国)

IV. デモイン Des Moines (IA州、米国)

V.　デービス Davis (CA州、米国)

VI. ウィニペグ Winnipeg (MB州、カナダ)

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

I.　本調査の概要および調査手法

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 本調査の概要

北米のイノベーション・エコシステムにおいて、日本企業のコラボレーション可能な機会を把握し、その結果を、日本企業および政策担当者向けに幅広く提供することを目的とする。

- **セクターの定義および報告書の対象範囲：**アグリテックセクターは、農業の効率化・持続可能性の向上を目的として、テクノロジーを活用する分野である。デジタル技術やバイオテクノロジー、ロボティクスなどを用いて、食料生産、供給、環境負荷の低減を実現する。本報告書は、北米のアグリテックセクターに焦点を当て、以下の主要なサブカテゴリーを対象とする。
  - **精密農業： センサー、ドローン、GPS、データ解析を活用した作物管理・収量最適化技術。**
  - **アグリバイオテクノロジー： 遺伝子編集、微生物利用、作物改良など、生物学的手法による農業技術の革新。**
  - **農業用ロボティクス： 自動収穫機、雑草除去ロボット、スマート灌漑システムなどの自動化機器。**
  - **農業デジタルプラットフォーム： 作物管理、サプライチェーン、マーケットアクセスを支援するクラウドベースのソリューション。**
  - **持続可能な農業資材： 水資源管理、環境負荷の少ない肥料・農薬、代替タンパク質など、環境配慮型の農業資源。**
- **本報告の内容：**アグリテック市場の概要およびクラスター分析について結果を報告するもの。クラスター分析では、対象地域の概要、地域課題、トレンド、日本企業の参入機会、ステークホルダーリストを取りまとめる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 調査手法およびクラスター特定

fDi Marketsの海外直接投資データ、PitchBookのベンチャーキャピタル動向、業界トレンドや地域分析に関するセクターレポートを活用。また、米国市場に関する深い知見と、報告書で取り上げた地域での実務経験を基に分析を実施した。

- ベンチャーキャピタル（VC）の動向および投資トレンドは、PitchBookを活用。PitchBookは、未上場企業および上場企業、投資家、取引、M&A、ファンド活動に関する詳細な情報を提供する包括的な金融データプロバイダーであり、データベースには世界で450万社および250万件の投資情報を含む。
- 直接投資動向のデータは、fDi Marketsを参照。fDi Marketsは、395,000件以上のプロジェクトと150,000社以上の企業に関するデータに加え、資本投資、雇用創出、企業プロフィールに関する情報を提供している。
- 幅広い業界動向を把握するため、業界レポート、学術誌、政府発行物、ニュース記事など、さまざまな二次情報源を活用した。
- ステークホルダーの特定および業界動向、アグリテッククラスターに関する情報収集において、OCOネットワークの専門知識を活用。チームが有するアグリテック分野での経験と米国市場に関する知見が、データの背景付けや市場動向の把握に寄与した。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 調査手法およびクラスター特定

アグリテッククラスターとして、セントルイス、デモイン、デービス、ウィニペグの4地域を選定。これらの地域は、以下の3つの主要要素に基づいて選ばれた。

1. **研究施設の存在**：各地域には、アグリテック分野のイノベーションを支える著名な学術機関や研究施設が集積している。
   - **セントルイス**：アグリフード・イノベーションの拠点であり、Bayer Crop Scienceの本拠地。強力なアグリバイオテック・エコシステムを有する。
   - **デモイン**：精密農業の中心地であり、PioneerやJohn Deerなどの大手農業関連企業が拠点を構える。
   - **デービス**：UCデービスでのアグリバイオテクノロジー研究が盛んで、持続可能性を重視したイノベーションが進行中である。
   - **ウィニペグ**: 農業イノベーション、穀物加工、寒冷地作物の研究開発が活発に行われている。
2. **業界特化型ベンチャーキャピタル（VC）の集積**：セントルイスおよびデモインでは、アグリバイオテクノロジーおよび精密農業に特化したベンチャーキャピタルが集まり、強固な投資エコシステムを形成している。カリフォルニア州デービスでは、UCデービスを中心とする研究機関と連携し、持続可能な農業技術やバイオインプットに関する投資が活発に行われている。カナダ・ウィニペグは、寒冷地農業や穀物加工技術に関連するスタートアップへの投資が増加しており、地域の農業イノベーションを支えている。
3. **アグリテック・エコシステムの存在**：これらのクラスターは、革新的かつ成功しているアグリテック企業の存在を基準に選定されている。これらの企業は、強力な研究開発（R&D）、製品革新、商業化活動を通じて地域経済の成長を牽引している。彼らの成功は新たなスタートアップの誕生を促し、高度な人材の確保や関連産業の発展を後押しすることで、クラスター内にイノベーションの好循環を生み出している。また、アカデミア、政府、民間の連携によって、アグリテックの持続的な成長が支えられている。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

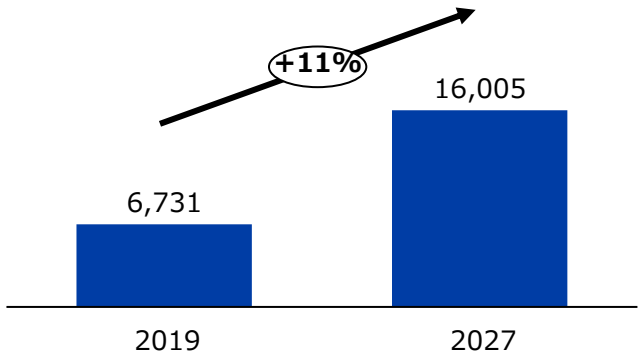
II.　セクターおよびクラスター概要

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 セクター概要

アグリテック分野における最新動向

- **人口増加と可耕地面積の制約：**人口は増加している一方、可耕地の拡大には限界がある。アグリテックは既存の土地を最大限に活用する手段として注目されており、デジタル農業市場は前年比9.17%の成長が見込まれている。
- **持続可能な農業の拡大：**若い世代の農家は自然との共生を重視し、持続可能な手法を導入している。これにより、自動化や制御技術の需要が高まり、同分野は前年比10.55%の成長を記録している。
- **自動化と衛星技術：**衛星データや空撮技術は、作物管理や収量予測に不可欠になりつつある。高コストが普及の課題だが、中小企業による手頃なソリューションへの期待が高まっている。
- **商業衛星と精密農業：**商業衛星やIoTの進化により、土壌の状態をリアルタイムで把握できるようになり、精密農業が加速。Planetのような企業は、これらの先進的なデータを提供し、農業分野の技術革新をけん引している。



北米アグリテック市場規模 (億米ドル)
出所：Research and Markets



アグリテック分野の主要企業

出所：EOS Data Analytics, BusinessWire, University of Illinois Urbana-Champaign, Wired, BusinessWire

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 セクター概要

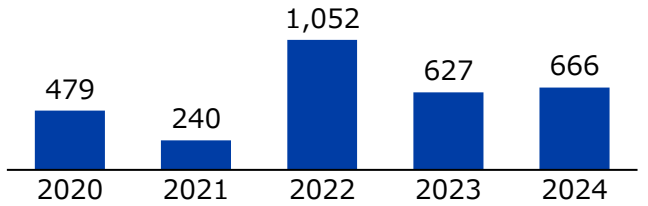
投資環境と資金調達動向

- アグリテック分野へのベンチャーキャピタル投資は近年減少傾向にあり、自律型農業やAI活用システムといった成長分野への選別的な投資が進んでいる。イノベーションと協業を促進するアグリテック・ハブは引き続き各地で形成されつつある。

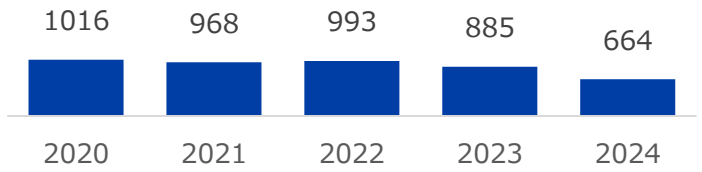
- 精密農業や持続可能な農業に取り組む企業によるIPOやM&Aも増加しており、戦略的パートナーシップの構築が進んでいる。

- 米国政府は、持続可能な農業や技術導入を推進するために、補助金や助成金、政策支援を通じてアグリテックを支援してきた。米国農務省（USDA）や国立食料農業研究所（NIFA）などの機関が中心的な役割を担っている。

- 民間投資も活発であり、労働力不足、気候変動、食料安全保障といった課題に対応するため、ドローン、IoT、データ分析分野への投資が注目されている。一方で、アグリテック・スタートアップは多額の初期投資を必要とし、環境目標と収益性の両立が課題となっている。



米国アグリテック分野への外国直接投資(億米ドル)
出所：fDi Markets



北米アグリテック分野へのVC投資(取引件数)
出所：Pitchbook

高成長サブセクター
- **精密農業**：年平均成長率（CAGR）14.4%以上。IoTやAIを活用し、作物の収量と資源利用の最適化を図る。
- **閉鎖環境型農業**：垂直農法など革新的な農業手法の開発を目的とし、CAGR約25%の成長が見込まれている。
- **ビッグデータと分析**：年平均成長率12%。ビッグデータを活用し、農業における意思決定の高度化を実現している。

出所：EOS Data Analytics, BusinessWire, University of Illinois Urbana-Champaign, Wired, BusinessWire

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 クラスター概要

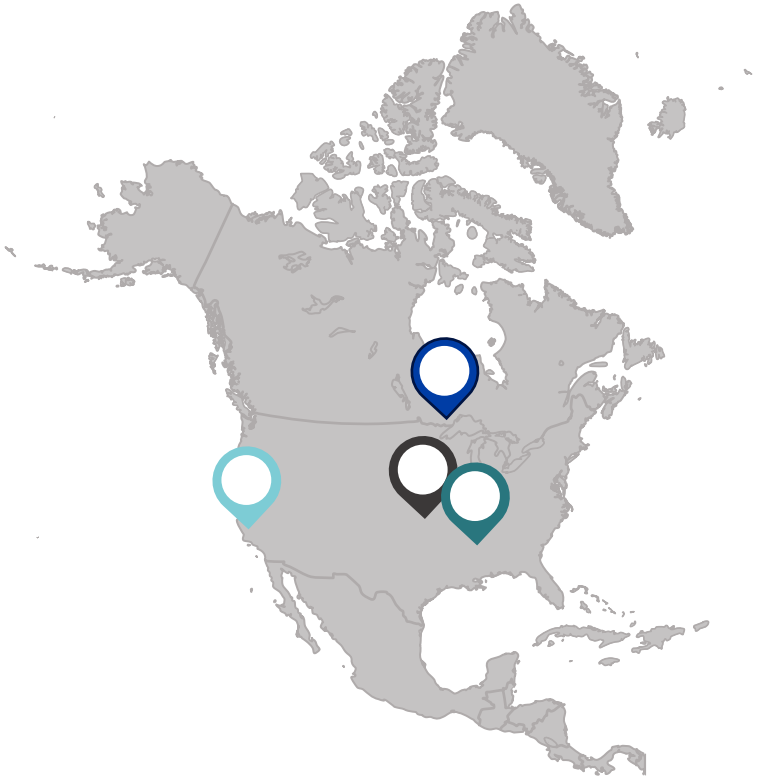
以下のクラスターは、北米アグリテック産業の多様で活発な状況を示しており、農業の発展に重要な役割を果たしている。

セントルイス（ミズーリ州）
アグリフード・イノベーションに特化した都市であり、Bayer Crop Scienceの本拠地。アグリバイオテック分野で強力なエコシステムを有している。

デモイン（アイオワ州）
PioneerやJohn Deerなどの企業が拠点を構える、世界有数の精密農業クラスターである。

デービス（カリフォルニア州）
UCデービスの研究力を基盤とした持続可能なアグリテックの拠点。農業分野におけるイノベーションを通じて、効率的かつ環境にやさしいグローバルな食料生産の課題解決に取り組んでいる。

ウィニペグ（マニトバ州、カナダ）
穀物加工や寒冷地作物の研究開発に特化した農業イノベーションの先進都市。研究機関を活用し、過酷な気候条件に対応した効率的かつ持続可能な農業ソリューションの開発を推進している。



Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

III.　セントルイス St. Louis (MO州、米国)

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 セントルイス概要

基本情報

- **都市の人口:** 28万2,000人
- **州:** 米国ミズーリ州
- **アグリテック関連従業員数:** 7,500人 (2024年)
- **アグリテック企業数:** 400 (2024年)



米国におけるセントルイスの位置

クラスター概要

- ミズーリ州は世界有数のアグリテック先進地であり、州全体で940億ドル以上の収益を生み出している。
- セントルイスには、1,000人以上の植物科学分野の博士号取得者、100社以上のバイオサイエンス関連企業、20億ドル規模の地元管理によるバイオサイエンス向けベンチャーキャピタルが集積している。
- 主な研究機関には、ドナルド・ダンフォース植物科学センター(Donald Danforth Plant Science Center)、BRDGパーク、ヘリックス・センター・バイオテック・インキュベーターが含まれる。
- **業界の平均給与:** 6万2,000ドル



ミズーリ州におけるセントルイスの位置

出所：Missouri Partnership, Missouri Partnership, Glassdoor

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 セントルイスの特長、課題および最新動向

特長

- セントルイスには、Monsantoを買収したBayer AGやBunge North Americaなどの大手農業関連企業が本拠を構えている。これらの企業は、アグリテック・エコシステムの堅固な基盤を提供しており、豊富なリソース、専門知識、グローバルネットワークを通じて、業界内のイノベーションと成長を促進している。彼らの存在は高度な人材を引き付け、周辺ビジネスの発展を促すことで、地域のアグリテック基盤をさらに強化している。
- この地域は、Benson Hillのような企業が作物改良や持続可能な農業の分野で先端技術を牽引するなど、活気あるアグリテック・スタートアップシーンを誇っている。この起業家的な環境は、初期段階の企業を育成するインキュベーターやアクセラレーターによって支えられており、セクター全体の活性化に貢献している。スタートアップと既存企業の間に根付く協働文化は、知識の共有を促進し、技術革新のスピードを高めている。
- セントルイスにあるDonald Danforth Plant Science Centerは、世界最大級の独立系植物科学研究機関のひとつである。同センターは学術機関および企業と連携し、植物生物学や農業におけるイノベーションを推進しており、地域の研究能力の強化に貢献している。最先端の設備と学際的なアプローチにより、世界中から優秀な科学者と研究プロジェクトが集まっている。
- 39 North Agtech Innovation Districtは、セントルイスにおけるアグリテック・イノベーションの中核拠点として機能している。研究機関、スタートアップ、既存企業が集まり、協働を通じて農業分野における技術革新を加速させている。この地区は戦略的な立地と優れたインフラを活かし、新技術の商業化と投資誘致を支援している。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 セントルイスの特長、課題および最新動向

課題

- **グローバル競争:**世界各地でアグリテック・ハブが登場する中、セントルイスは人材、投資、企業パートナーシップの誘致において競争に直面している。競争力を維持するためには、継続的なイノベーションと戦略的なポジショニングが不可欠である。地域の強みを最大限に活かし、グローバル市場において差別化を図る必要がある。また、農業の知識とテクノロジーの両方に精通した人材の育成も求められており、これらのスキルを融合した教育プログラムの開発が業界のニーズに対応するうえで重要となる。産業界と教育機関の連携は、このような人材育成を促進する手段となる。

- **伝統的農業と先端技術の統合:**先進的なアグリテック技術と従来の農業手法の間のギャップを埋めることは課題である。技術革新が農家にとって利用しやすく、有益なものであることを確保することが、広範な導入につながる。そのためには、ユーザーフレンドリーな技術の開発と効果的な研修プログラムが必要とされる。

最新動向

- **持続可能な農業の推進:**アグリテック分野では、持続可能性への関心が高まっている。企業は、資源の効率的な利用を可能にする精密農業ツールなど、環境保全を促進する技術の開発に注力している。この動きは、気候変動への対応や食料安全保障の確保といった国際的な課題への取り組みとも一致している。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **共同研究開発:**日本企業および研究機関は、Donald Danforth Plant Science Centerのような現地機関と連携し、革新的なアグリテック・ソリューションの共同開発を行うことができる。たとえば、共同研究プロジェクトとして、先進的な遺伝子技術を用いた耐乾燥性作物の品種開発などが想定される。こうした連携により、作物の遺伝学、害虫管理、持続可能な農業手法といった分野において技術革新が進む可能性がある。
- **アグリテック・スタートアップへの戦略的投資:**セントルイスに拠点を置くアグリテック・スタートアップへの投資は、日本企業にとって新たな技術やビジネスモデルへのアクセス機会を提供する。たとえば、カゴメは2024年にSVG Venturesと連携し、5,000万ドル規模のアグリテック・ファンドを創設した。このような協業は、技術移転を促進し、双方にとって新たな市場開拓にもつながる。
- **アグリテック・イノベーション地区への参画:**39 North Agtech Innovation Districtへの参画を通じて、日本企業は地域のスタートアップ、研究機関、産業関係者との連携の場を得ることができる。この関与により、共同事業や実証プロジェクトの実施、米国のアグリテック市場に対する理解の深化が期待される。たとえば、この地区内に衛星研究拠点を設けることで、リアルタイムでの連携やイノベーション創出が可能となる。
- **北米拠点の設立:**セントルイスは地理的に米国の中心に位置し、ビジネス環境も整っていることから、日本のアグリテック企業にとって北米拠点の新設・拡張に適した場所である。既存の産業基盤やインフラの充実により、事業拡大のための強固な土台が提供される。たとえば、セントルイスに流通センターを設置することで、米国市場への対応力を高めることができる。

出所：Kagome

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 ベンチャーキャピタル

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
BioGenerator	BioGeneratorはライフサイエンス分野において革新的な企業やアイデアを創出・育成・投資するエバーグリーン型の投資機関である。初期段階からの資金提供に加え、起業家と密接に連携しながら、科学的なブレークスルーを実用的なビジネスへと発展させている。	アグリバイオテクノロジー、ライフサイエンス	https://www.biogeneratorventures.com/
Cultivation Capital	Cultivation Capitalは、テクノロジーおよびライフサイエンス分野の初期段階の企業に対して投資を行っている。資金提供だけでなく、戦略的なアドバイスも行い、スタートアップのスケーリングと市場での成功を後押ししている。	アグテックスタートアップ、研究施設	https://www.cultivationcapital.com/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
The Yield Lab	The Yield Labは、アグリテック分野のスタートアップに対して、初期資金の提供と成長支援を行う主要なアクセラレーターである。イノベーションと市場とのギャップを埋めることを目的とし、メンタリングや各種リソースを通じてスタートアップの事業化を支援している。	アグリバイオテクノロジー、持続可能な農業	https://www.theyieldlab.com
BRDG Park	BRDG Park（Bio-Research & Development Growth Park）は、ライフサイエンス企業向けに世界水準の研究施設と協働の場を提供している。スタートアップが迅速に成長できるよう、インフラと支援体制を整えている。	アグテック、ライフサイエンス	https://brdgpark.com
Helix Center Biotech Incubator	The Helix Centerは、バイオテクノロジーおよびアグリテック分野のスタートアップ向けに、低コストのラボ・オフィススペースを提供している。必要なリソースやネットワークへのアクセスを通じて、イノベーションと成長を支援する環境を整えている。	バイオテクノロジー、アグテック	https://stlpartnership.com/innovation-entrepreneurship/helix-center/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

7 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
Donald Danforth Plant Science Center	Donald Danforth Plant Science Centerは1998年に設立され、世界最大規模の独立系植物科学研究機関である。食料安全保障や環境持続性に焦点を当て、植物科学を通じて人類の生活向上を目指している。	植物科学、作物改良	https://www.danforthcenter.org/
Cortex Innovation Community	Cortexは、テクノロジーおよびバイオサイエンス分野における成長企業を加速させるイノベーションハブであり、最先端の施設と協働型エコシステムを通じて地域経済の発展を推進している。	イノベーション地区、スタートアップ支援	https://www.cortexstl.org/
St. Louis Agribusiness Club	St. Louis Agribusiness Clubは、アグリビジネス専門家の利益を促進するため、ネットワーキング、教育、地域連携の機会を提供する団体であり、業界の動向について議論し、会員間の協力を促進するプラットフォームとして機能している。	アグリビジネス・ネットワーキング	https://stlouisagclub.org/
Missouri Botanical Garden	Missouri Botanical Gardenは1859年に設立された植物研究および科学教育の拠点であり、植物保全と持続可能な農業の実践を通じて環境保全の重要性を発信している。	植物科学研究	https://www.missouribotanicalgarden.org/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

IV.　デモイン Des Moines（IA州、米国）

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 デモイン概要

基本情報

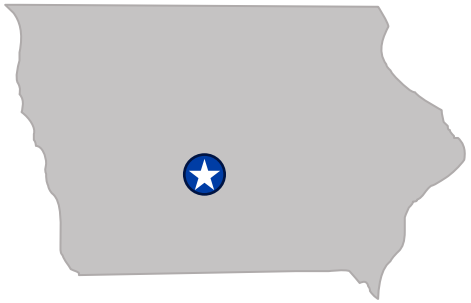
- **都市の人口:** 84万3,000人
- **州:** 米国アイオワ州
- **アグリテック関連従業員数:** 8,000人 (2024年)
- **アグリテック企業数:** 150社以上 (2024年)



米国におけるデモインの位置

クラスター概要

- 農業技術者の集中度で全米第2位、食品科学者・技術者の集中度で第1位を誇る州である。
- アイオワ州立大学（ISU）の農業プログラムは、過去11年連続で世界の農業・林業関連機関の上位4%に選出されている。
- デモイン市には近年で(2019年以降）3億6,300万ドルの投資が行われており、Helena Industries、Kemin Industriesなどが含まれる。
- 世界最大の食品製造・加工企業100社のうち29社がこの地に拠点を置いている。
- **業界の平均給与:** 8万4,900ドル



アイオワ州におけるデモインの位置

出所：Des Moines Register, DSM Partnership, Salary.com, Des Moines, Feed Strategy

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 デモインの特長、課題および最新動向

特長

- 肥沃な土壌と恵まれた気候に支えられ、アイオワはトウモロコシや大豆を中心とする農業分野で全米をリードしてきた。この強固な農業基盤は、生産性と持続可能性を高める先進技術の導入を支える土台となっている。州全体が農業の高度化に継続的に取り組んでおり、農業技術の革新に対する関心と投資は非常に高い。
- デモインではAmerica’s Cultivation Corridorなどの支援を受けたスタートアップ・エコシステムが成長しており、フードテック、アグリテック、バイオ製品分野での革新を加速させている。過去10年間で、食品・農業関連のイノベーションに対して9,500件以上の特許が州内で取得されており、技術力の高さがうかがえる。
- 中西部の中心という地理的優位性を活かし、デモインはアグリテック企業にとって主要市場への効率的なアクセスを可能にしている。整備された輸送網とインフラによって、農産物の流通も円滑に行え、地域企業の競争力強化に貢献している。
- 近郊のIowa State University（ISU）は、工学、農学、自然資源保全分野において全米トップ25の研究開発機関に数えられており、アグリテック分野の進展に不可欠な知見と人材を提供している。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 デモインの特長、課題および最新動向

課題

- **アグリテック分野におけるグローバル競争:**世界各地でアグリテック・ハブが台頭する中、デモインも人材、投資、企業パートナーシップの誘致において競争に直面している。競争力を維持するためには、継続的なイノベーションと、グローバル市場における戦略的なポジショニングが不可欠である。そのためには、地域固有の強みを活かし、他のアグリテック拠点との差別化を図る協業体制の構築が重要となる。
- **先端技術と伝統的農業の統合:**最先端のアグリテック・ソリューションと従来の農業手法とのギャップを埋めることは大きな課題である。技術革新が農家にとって利用しやすく、実際に役立つものであることが、広く導入されるための鍵となる。そのためには、ユーザーフレンドリーな技術の開発と、円滑な導入を支える実践的なトレーニングプログラムの整備が求められる。

最新動向

- **持続可能な農業の推進:**アグリテック分野では持続可能性への関心が高まっており、企業は環境保全を促進する技術、たとえば資源利用を最適化する精密農業ツールの開発に注力している。この流れは、気候変動対策や食料安全保障といった国際的な課題とも合致しており、デモインは持続可能な農業の先進都市としての地位を確立しつつある。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **共同研究開発:**日本の企業や研究機関は、Iowa State Universityのような機関と連携し、革新的なアグリテック・ソリューションを共同で開発することができる。たとえば、高度な遺伝子技術を用いた耐乾燥性作物の品種開発に関する共同研究プロジェクトが考えられる。こうした連携は、作物遺伝学、害虫管理、持続可能な農業手法といった分野における技術革新を促進し、日米双方にとってメリットがある。
- **アグリテック・スタートアップへの投資:**デモインを拠点とするアグリテック・スタートアップへの投資は、日本企業にとって新興技術や革新的なビジネスモデルへのアクセスを可能にする。たとえば、Iowa AgriTech Acceleratorは多くの投資を集めており、今後の有望な協業の可能性を示している。このような投資は技術移転を促進し、双方にとって新たな市場開拓の機会を生み出すことができる。
- **アグリテック・イノベーション・プログラムへの参画：**支援機関が主催するイノベーションプログラムのような取り組みに参加することで、日本のスタートアップはグローバルネットワークおよび重要なリソースにアクセスできるようになる。このような関与は、共同事業、実証プロジェクト、米国アグリテック市場の理解促進などを通じて、円滑な市場参入と事業拡大の可能性を高める。
- **北米事業拠点の設立:** デモインは中西部の中心に位置し、ビジネスに適した環境が整っているため、日本のアグリテック企業にとって北米での拠点新設や事業拡大に最適な立地となっている。整備されたインフラと農業関連産業の集積が、事業成長のための堅固な基盤を提供する。たとえば、デモインに流通センターを設けることで、米国市場への対応力を強化し、物流面での優位性を活かすことができる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 ベンチャーキャピタル

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
Next Level Ventures	Next Level Venturesは、アイオワ州に拠点を置く成長企業への投資を行っており、AgTech（農業テクノロジー）分野の企業も対象としている。資金提供に加えて、スケールアップや事業成功のための戦略的支援も行っている。	AgTech投資	https://www.nextlevelvc.com/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
Ag Startup Engine	Ag Startup Engineは、AgTech分野の初期段階のスタートアップに対してシード資金とメンタリングを提供している。有望な技術の開発を加速し、農業の変革を目指している。	AgTech、シード投資	https://www.agstartupengine.com/
Iowa Farm Bureau's Renew Rural Iowa	本プログラムは、地方の起業家を対象に、トレーニング、メンタリング、資金支援を提供している。AgTechなどの分野におけるビジネス育成を通じて、地域の再活性化を目指している。	地方におけるAgTech起業支援	https://www.iowafarmbureau.com/Renew-Rural-Iowa

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

7 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
Cultivation Corridor	Cultivation Corridorは、アイオワ州における農業バイオサイエンス、技術、サステナビリティ分野でのリーダーシップ強化を目的とする取り組みであり、イノベーターとリソースのマッチングを通じて、AgTech分野の経済発展を促進している。	農業イノベーション、経済発展	https://www.cultivationcorridor.org/
Start Something CALS	本イニシアティブは、学生やスタートアップに対して教育・指導・リソースを提供し、農業における起業活動を育成することを目的としている。次世代の農業イノベーターの育成に注力している。	農業起業支援	https://startsomething.cals.iastate.edu/
America's Cultivation Corridor	本機関は、米国中西部を農業イノベーションおよび生産性におけるグローバルリーダーとして位置づけることを目指しており、企業や人材を地域に呼び込み、AgTechの進展を支援している。	農業イノベーションの促進	https://www.cultivationcorridor.org/
Iowa State University Extension and Outreach	ISU Extension and Outreachは、アイオワ州の住民に対し、アイオワ州立大学の研究成果やリソースへのアクセスを提供しており、農業や地域開発分野における生活の質の向上に取り組んでいる。	農業教育、地域開発	https://www.extension.iastate.edu/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

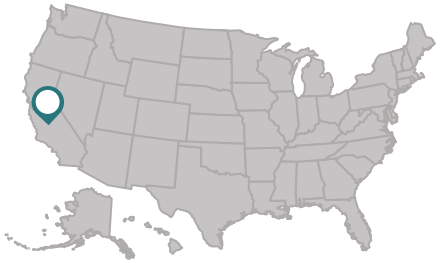
V.　デービス Davis（CA州、米国）

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 デービス概要

基本情報

- **都市の人口:** 6万5,800人
- **州:** 米国カリフォルニア州
- **アグリテック関連従業員数:** 1,000人 (2024年)
- **アグリテック企業数:** 50社以上 (2024年)



米国におけるデービスの位置

クラスター概要

- 生物科学者の集積度は全米平均の2.08倍であり、専門人材が高密度に集まる地域となっている。
- UC DavisおよびSacramento Stateでは、食品および農業分野の卒業生が年間3,000人以上にのぼり、安定した人材供給が可能である。
- UC Davisは農業・林業分野で全米1位、生物・農業工学分野で3位にランクされており、1,500件超の特許および403件の発明記録を保有している。
- **業界の平均給与:** ８万ドル



カリフォルニア州におけるデービスの位置

出所：World Population Review, Greater Sacramento, City of West Sacramento, Talent.com

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 デービスの特長、課題および最新動向

特長

- UC Davisは農業研究の分野で世界的に高い評価を受けており、農業科学において常に上位にランクされている。テクノロジー、リーダーシップ、デザインを融合したプログラムを通じて、農業・環境分野の課題解決に取り組んでいる。また、日本農業研修協会（JAEC）との協力を通じて、日本の農業発展を20年以上にわたり支援してきた。
- 米国農務省（USDA）はDavisに「Agricultural Research and Technology Center（農業研究・技術センター）」の建設を進めており、気候変動、水不足、新たな病害虫といった農業課題に対応する最先端施設となる予定である。同施設は2026年11月に開設予定である。
- UC Davisはさらに、「Resnick Center for Agricultural Innovation」を設立し、持続可能な食料生産の実現に向けた研究を推進している。Davisではアグリテック・スタートアップも活発で、Biome Makersのように、土壌生物学を活用した生産性向上に取り組む企業が本社を構えるなど、バイオテクノロジーと伝統的農業の融合が進んでいる。

出所：UC Davis, Good Fruit Grower

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 デービスの特長、課題および最新動向

課題

- **アグリテック分野におけるグローバル競争:**世界各地でアグリテック・ハブが形成される中で、Davisも人材、投資、企業連携の獲得において競争に直面している。競争力を維持するためには、地域の強みを活かした差別化と、継続的なイノベーションおよび戦略的ポジショニングが求められる。
- **先端技術と伝統的農業の統合:**最新のアグリテック技術と従来の農業手法との間には導入ギャップが存在しており、技術が農家にとって使いやすく有益であることが普及の鍵となる。そのためには、ユーザー視点の技術開発と効果的な研修プログラムの整備が必要である。

最新動向

- **持続可能な農業の推進:**アグリテック業界では持続可能性への関心が高まっており、企業は資源の効率的活用を促進する精密農業ツールなど、環境保全に貢献する技術の開発を進めている。この流れは気候変動や食料安全保障への国際的な取り組みに沿ったものであり、デービスは持続可能な農業分野における先進地としての地位を強めている。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **共同研究開発:**日本企業および研究機関は、UC Davisと連携し、革新的なアグリテック・ソリューションの共同開発を行うことができる。こうした協力は、作物遺伝学、病害虫管理、持続可能な農業手法の分野における技術革新をもたらし、双方にとって利益となる。
- **アグリテックスタートアップへの投資:**デービスを拠点とするアグリテック・スタートアップへの投資により、日本企業は新興技術や新たなビジネスモデルへのアクセスが可能となる。たとえば、World Agri-Tech Summit（サンフランシスコ）への参加を通じて、日本企業は最新技術や協業事例を発信し、技術移転や新市場開拓の促進につなげることができる。
- **アグリテック・イノベーション・プログラムへの参画:** AIFS（AI Institute for Next Generation Food Systems）のようなプログラムに参画することで、日本企業は食品システム全体におけるオープンソースAIソリューションの共同開発に関与できる。このような活動は、共同事業や実証プロジェクト、米国アグリテック市場の理解促進につながり、円滑な市場参入と事業拡大の可能性を高める。
- **北米拠点の設立:**カリフォルニアの農業中心地に位置し、ビジネス環境が整ったデービスは、日本のアグリテック企業にとって北米拠点の設立・拡張に適した場所といえる。地域のインフラと産業基盤も整備されており、成長のための土台が整っている。たとえば、デービスに流通センターを設けることで、米国市場への対応力を高めることが可能となる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 ベンチャーキャピタル

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
Barnstorm Foundry	Barnstorm Foundryは、UCデービスの研究者および起業家と連携し、プレシード段階のAgTechイノベーションに投資するベンチャーキャピタルである。将来的に事業化が見込まれる技術を発掘し、支援を行っている。	アーリーステージAgTech投資	https://barnstormfoundry.com/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
UC Davis Venture Catalyst	UC Davis Venture Catalystは、大学の研究成果を商業化へとつなげる支援を行っている。AgTechを含む分野のスタートアップに対して、リソース、メンタリング、ネットワークへのアクセスを提供し、研究から市場への移行を後押ししている。	AgTechの事業化、研究成果の実用化	https://venturecatalyst.ucdavis.edu/
AgStart	AgStartは、北カリフォルニアの起業家に対して、農業、食品、ヘルス分野の革新的な技術の事業化を加速する支援を行っている。ネットワーキング、教育、メンタリング、リソースへのアクセスを通じて、スタートアップの成長を支えている。	AgTechイノベーション、スタートアップ支援	https://www.agstart.org/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

7 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
UC Davis Innovation Institute for Food and Health	本研究機関は、農業、食品科学、健康を統合的に研究し、世界的課題に取り組んでいる。起業家やベンチャーキャピタルとの連携を通じて、食品および農業技術のイノベーションを推進している。	フードテック、持続可能な農業	https://foodandhealth.ucdavis.edu/
UC Agriculture and Natural Resources (UC ANR)	UC ANR（カリフォルニア大学農業・自然資源局）は、農業、自然資源、栄養、青少年育成に関するUCの研究力を地域社会と結びつけ、カリフォルニア州民の生活向上に貢献している。持続可能な農業の推進において重要な役割を果たしている。	持続可能な農業、地域連携	https://ucanr.edu/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

VI.　ウィニペグ Winnipeg (MB州、カナダ)

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

1 ウィニペグ概要

基本情報

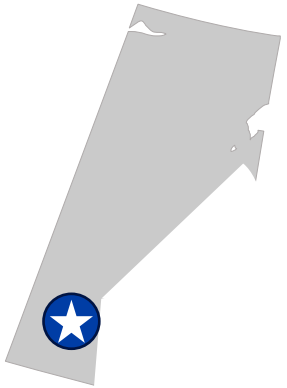
- **都市の人口:** 78万3,000人
- **州:** マニトバ州
- **アグリテック関連従業員数:** 不明
- **アグリテック企業数:** 10社以上 (2024年)



カナダにおけるウィニペグの位置

クラスター概要

- ウィニペグには、カナダ最大の農業研究開発エコシステムが形成されており、マニトバ大学、Richardson Development Centre、Prairie Research Kitchen、およびCanadian Centre for Agri-Food Research in Health and Medicineが含まれる。
- Manitoba First Fund（MFF）は、2022年に1億ドルの初期資金で設立され、マニトバ州の企業があらゆる成長段階で資本へアクセスできるよう支援することを目的としている。
- **業界の平均給与:**不明



マニトバ州におけるウィニペグの位置

出所：World Population Review, Economic Development Winnipeg, Tall Grass

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

2 ウィニペグの特長および最新動向

特長

- ウィニペグには、Paterson GlobalFoods、Richardson International、Cargill Ltd.など、カナダの農業サプライチェーンを担う大手アグリビジネス企業が集積している。これらの企業は精密農業ツールやAI農場管理ソフト、次世代作物技術への需要を牽引しており、日本企業にとって技術提供や輸出チャネル開拓の好機となっている。
- また、Farmers Edge（精密農業）やJCA Technologies（自律型農機）など、革新的なアグリテック企業がAI・自動化技術の導入を進めており、日本のロボティクス、IoT、AI分析分野の企業にとっては、北米市場への展開を加速する連携機会が広がっている。
- ウィニペグは、カナダ農業の中心地に位置し、米国や国際市場へのアクセスにも優れる物流拠点である。鉄道・道路などのインフラが整備されており、日本企業にとって北米営業・サービス体制の拡大拠点として適している。
- さらに、マニトバ大学は作物遺伝学、土壌保全、持続可能な農業に関する研究で知られ、日本企業は同大学の農業・食品科学学部と連携し、共同研究や特許取得、研究助成の活用を通じて市場参入を後押しできる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

3 ウィニペグの特長および最新動向

最新動向

- **アグリテック分野におけるグローバル競争：**アグリテック産業の拡大に伴い、ウィニペグはセントルイス、デモイン、デービスといった他の拠点と、ベンチャーキャピタルや人材の誘致において競争に直面している。北米展開を目指す日本企業にとって、ウィニペグは運営コストの低さと政府のアグリテック投資支援により、よりコスト効率の高い選択肢となりうる。これにより、米国市場よりも低コストで先端的なイノベーションへのアクセスが可能となる。

- **伝統的農業との技術統合：**アグリテック導入は、保守的な農業慣習や初期コストへの懸念から、導入速度が遅れる傾向がある。低価格・モジュール型・拡張性の高いソリューションを持つ日本企業は、農業自動化、ドローンによるモニタリング、AI灌漑技術を通じて、投資対効果（ROI）に基づく導入モデルを提示し、現地農家のデジタル農業への移行を後押しできる可能性がある。

- **持続可能な農業の推進:**世界的に炭素排出削減と農業の持続可能性向上が求められる中、マニトバ州の農業セクターでは、カーボンニュートラルな作物生産、水資源の保全、再生型農業への投資が進んでいる。生分解性肥料、代替タンパク質、水効率型灌漑システムに強みを持つ日本企業は、カナダ・日本双方の規制基準に対応した持続可能な農業手法の実装において、現地アグリビジネスとの連携が期待できる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

4 日本企業の市場参入機会

- **共同研究開発:** 日本企業や研究機関は、マニトバ大学の農業研究部門と連携し、革新的なアグリテック技術を共同開発できる。たとえば、遺伝子組換え作物、スマート温室、AIによる害虫管理などの分野で、持続可能な食料生産の進展が期待される。これらの取り組みを通じて、カナダのR&D税制優遇措置を活用し、イノベーションと商業化を加速させることが可能となる。
- **アグリテック・スタートアップへの投資:** ウィニペグを拠点とするアグリテック・スタートアップへの投資により、日本企業は新興技術やビジネスモデルへのアクセスを得られる。たとえば、Farmers Edgeは近年、Leaf Agricultureと提携し農業データの利活用を拡大しており、AIベースのデータソリューションを北米の精密農業に統合する機会を提供している。日本のVCは、AI、ロボティクス、バイオテク分野の初期段階スタートアップへの投資を通じて技術領域を拡大できる。
- **イノベーションプログラムへの参画:** CAAIN（Canadian Agri-Food Automation and Intelligence Network）やCanadian Agtech Acceleratorに参加することで、日本企業は次世代ロボティクス、センサーネットワーク、予測分析の共同開発が可能になる。これらのプログラムは、資金、規制支援、業界関係者との連携も提供し、日本企業にとってカナダ市場への戦略的参入拠点となる。
- **北米拠点の設立:** ウィニペグはコスト競争力が高く、北米の主要農業地域へのアクセスも良好であり、日本企業が営業・流通・R&D拠点を設立する立地として適している。たとえば、日本の精密農業機械メーカーがIoT対応機器の試験・展開拠点をウィニペグに設けることで、同市の整備された物流網を活用し、カナダおよび米国全土の農業現場に迅速にリーチできる。

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

5 アクセラレータ・インキュベーター

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
North Forge Technology Exchange	North Forgeは、マニトバ州のイノベーション経済を推進する、イノベーションを基盤とした経済開発機関である。起業家に対してメンター、分野別専門家、2段階のスタートアップ支援プログラムを提供しており、これまでに60社以上が1億8,000万ドル以上の資金調達に成功している。	AgTechスタートアップ、事業開発	https://www.northforge.ca/
Manitoba Technology Accelerator (MTA)	MTAは2005年に設立され、科学技術を基盤としたビジネスチャンスの創出を目指すイノベーター、起業家、スタートアップを支援している。事業化支援、メンタリング、トレーニングなどを通じてビジネスの成長を加速している。	AgTechイノベーション、スタートアップ加速支援	https://mbtechaccelerator.com/
Smartpark Research and Technology Park	Smartparkはマニトバ大学に関連する研究・技術パークであり、多くのスタートアップや研究部門が拠点を置いている。AgTech分野のイノベーションや共同研究のための施設や支援を提供している。	AgTech研究、イノベーション拠点	https://umanitoba.ca/facilities/smartpark

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.

6 公的機関・研究機関

業務形態	詳細	専門分野	ウェブサイト
University of Manitoba Faculty of Agricultural and Food Sciences	この学部は、農業および食品科学に関する教育プログラムと研究を行っている。持続可能な農業の実践と食料安全保障の推進に注力している。	持続可能な農業、フードテクノロジー	https://umanitoba.ca/agricultural-food-sciences/
Prairie Research Kitchen	Red River Collegeに所属するPrairie Research Kitchenは、食品科学と調理技術を融合させて食品製品の開発を支援する施設であり、AgTech企業の付加価値製品開発をサポートしている。	食品科学、製品開発	https://www.rrc.ca/research-kitchen/
Food Development Centre	Food Development Centreは、新しい食品加工技術の開発に取り組むAgTech企業に対して、技術支援と専門知識を提供している。製品の商業化とスケールアップを支援している。	食品加工、AgTech支援	https://www.gov.mb.ca/agriculture/food-and-ag-processing/starting-a-food-business/food-development-centre/index.html
Industrial Technology Centre (ITC)	ITC（Industrial Technology Centre）はマニトバ州政府の特別運営機関であり、先端製造業および複合材料業界向けに技術サービスを提供している。AgTech企業に対しても技術支援と施設の利用を可能にしている。	技術サービス、AgTech支援	https://www.itc.mb.ca/
Richardson Centre for Functional Foods and Nutraceuticals	この研究センターは、機能性食品と栄養補助食品に関する科学的研究を行い、健康と栄養の向上を目指している。業界パートナーと連携して革新的な食品製品の開発を進めている。	機能性食品、栄養補助食品	https://umanitoba.ca/richardson-centre-food-technology-research/

Copyright © 2025 JETRO. All rights reserved.